

祝
辞

裁判所職員総合研修所第十四期研修生の皆さん、本日はおめでとうございます。

皆さん方は、裁判所書記官あるいは家庭裁判所調査官を目指して努力を重ねられ、本日このように入所式を迎えるました。これまでの努力が報われて、重要な職務を担おうとの高い志と使命感をもつて、研修生活の第一歩を踏み出されたことに対し、敬意を表するとともに、心からお喜びを申し上げます。新進気鋭の皆さん方のこれから精進と活躍を大いに期待します。

近年、情報通信技術の急激な発展、国際化、少子高齢化など社会経済の顕著な変容が指摘されています。裁判所を取り巻く社会の状況はこのよう大大きく変化し、人々の価値観が多様化するとともに、組織や家族の在り方もまた急速に流動化しているように見受けられます。そうした中、法に従い、適正な手続と中立公正な立場からの妥当な判断によつて事件や紛争を適切に解決し、このことを通じて、社会の安定と発展の基盤を支える裁判所の役割は、ますます重要性を帶び、これに対する国民の期待も高まっています。そうした期待に応えるためには、一人一人の職員が、その与えられた職務を着実に果たすことが肝要であり、質の高い裁判事務の遂行が、いまほど求められている時代はありません。

裁判所書記官は、その法的専門性を活かし、公正かつ円滑な手続を確保し、適正な裁判の実現に寄与することが、また、家庭裁判所調査官は、行動科学の知見や技法を駆使して、納得性の高い審判や調停の実現に寄与することが、それぞれ期待されています。皆さん方は、からの研修において、まずもつて、こうした役割を果たすために必要な基本的な知識と

技法をしっかりと修得する必要がありますが、それにとどまらず、自分たちの仕事がそれぞれの事件の適正迅速な解決にどのように役立つかを自らの頭で考え、よりよい事務の遂行に向けて常に改善工夫を続ける姿勢を身に付けていただくよう希望します。

裁判所の仕事は、職責の違う複数の職種が協働することで成り立っています。こうした協働が円滑、有効に行われるためには、それぞれの職種が果たす役割を相互に理解し、十分な意思疎通を図って協力し合うことが何よりも重要です。この研修所が裁判所書記官と家庭裁判所調査官の養成を一か所で行っていることは、職種間の相互理解の基盤を築く上で大きな意味のあることです。皆さん方は、この研修所とともに過ごす時間を通じて、相互に切磋琢磨しながら実り多い交流を重ね、高い職業倫理を共有する裁判所職員として、信頼し、尊敬しあえる関係を築いていただくよう期待します。

最後に、皆さん方が、心身ともに健康で、実りある研修生活を送られ、無事に養成課程を修了されて、裁判所書記官あるいは家庭裁判所調査官として立派に巣立たれることを祈念して、私の祝辞といたします。

平成二十九年四月六日

最高裁判所判事 山崎敏充